



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年8月8日

上場会社名 ヒビノ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2469 URL <https://www.hibino.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 日比野 晃久
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員ヒビノGMC経営企画グループ担当 (氏名) 大関 靖 TEL 03-3740-4391
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：無
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	13,861	18.9	817	271.3	894	198.1	504	192.1
2025年3月期第1四半期	11,662	25.8	220	—	300	—	172	—

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 507百万円 (73.5%) 2025年3月期第1四半期 292百万円 (843.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	50.79	—
2025年3月期第1四半期	17.41	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	43,686	12,375	26.5
2025年3月期	44,112	12,007	25.9

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 11,562百万円 2025年3月期 11,431百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	40.00	—	30.00	70.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	40.00	—	40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
 2025年3月期の第2四半期末の配当金40円には、「設立60周年記念配当」10円を含んでおります。

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	31,400	16.7	1,850	26.4	1,850	36.0	1,050	34.6	105.76
通期	66,500	11.8	4,300	3.1	4,200	7.0	2,450	42.2	246.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

	Spectrum Audio Visual Pte. Ltd.	
新規 4社 (社名)	株式会社デランシー 株式会社RECO 株式会社CHAMELEON	除外 1社 (社名) Sama D&I Co., Ltd.

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(連結の範囲の重要な変更)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | ：無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | ：無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | ：無 |
| ④ 修正再表示 | ：無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年3月期1Q	10,265,480株	2025年3月期	10,265,480株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	352,008株	2025年3月期	331,173株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2026年3月期1Q	9,932,808株	2025年3月期1Q	9,922,759株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(連結の範囲の重要な変更)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善や各種政策の効果により、緩やかな回復が続きました。ただし、アメリカの通商政策の影響による下振れリスクをはじめ、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響が懸念され、先行きが見通せない状況にあります。

このような状況のもと当社グループは、グループビジョン「世界のヒビノへ」の実現に向け、中期経営計画「ビジョン2025」（2023年3月期～2026年3月期）に取り組んでいます。本中期経営計画では、中期経営方針として「持続的成長を可能とする経営体質の構築」及び「健全経営の確立」の2つを掲げています。「ハニカム型経営」と「イノベーション」を成長戦略の柱とし、M&Aも活用して新領域を開拓するとともに、適正な利益、財務の安定、人的資本の向上の好循環サイクルを確立していきます。

この方針に基づき、当第1四半期には、シンガポールの音響・映像機器の販売施工会社Spectrum Audio Visual Pte. Ltd. 等を子会社化しました。

当第1四半期連結累計期間は、M&Aに伴う新規連結効果により前年同四半期と比較して9社の業績が上積みされたことに加え、コンサート・イベントサービス事業が、大阪・関西万博の開催やコンサート・イベント市場の活況に伴う旺盛な需要を捉えて伸長し、計画を上回る着地に大きく貢献しました。

これらの結果、売上高13,861百万円（前年同四半期比18.9%増）、営業利益817百万円（前年同四半期比271.3%増）、経常利益894百万円（前年同四半期比198.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益504百万円（前年同四半期比192.1%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

[販売施工事業]

販売施工事業では、国内の放送局市場やコンサート・イベント市場、設備市場における設備投資は堅調に推移しています。当第1四半期連結累計期間は閑散期にあたり大型案件が少なかったものの、LEDディスプレイ・システムの販売は新設アリーナ案件等の獲得により好調を維持しました。

海外では、韓国において当第1四半期に子会社間の合併を実施し、事業統合による業務効率化とコスト削減を進めています。また、前期の第4四半期から業績に反映しているオーストラリアのInSight Systemsグループが当期は第1四半期から寄与していることから、アジア・オセアニア地域における売上高は拡大しました。

これらの結果、売上高6,304百万円（前年同四半期比7.4%増）、セグメント損失158百万円（前年同四半期はセグメント損失4百万円）となりました。

[建築音響施工事業]

建築音響施工事業では、メディア・コンテンツ関連や製造業の顧客による設備投資の活発化、都市再開発プロジェクトの進展を背景に、スタジオ、音響実験室、ホール等の新築・改修計画が複数進行しています。一方で、当第1四半期連結累計期間においては、いくつかの大型案件で工事進捗が計画から前後したことによる一時的な影響を受けたことから、売上高及びセグメント利益は前年同四半期をやや下回りました。

これらの結果、売上高1,986百万円（前年同四半期比2.9%減）、セグメント利益3百万円（前年同四半期比95.2%減）となりました。

[コンサート・イベントサービス事業]

コンサート・イベントサービス事業では、大阪・関西万博における複数のパビリオンや関連施設、イベントに対して大型映像サービス及び音響サービスを提供しています。加えて、コンサート市場では、K-Popアーティストや野外での大規模公演の増加等により受注規模が拡大しました。スポーツイベントや企業イベントを含む各市場も総じて好調に推移したことから、グループ全体の業績を押し上げました。

また、当社グループにおいて映像制作を担うCHグループ10社のうち、前期の第2四半期から業績に反映している3社が当期は第1四半期から寄与していることに加え、新たに3社を当第1四半期より連結範囲に含めたことで、計6社の業績が加算されています。

これらの結果、売上高5,113百万円（前年同四半期比36.5%増）、セグメント利益1,287百万円（前年同四半期比164.9%増）となり、当第1四半期連結累計期間として過去最高を記録しました。

[その他の事業]

その他の事業は、前第2四半期連結会計期間より新たに追加された報告セグメントであります。当第1四半期連結累計期間は、売上高456百万円、セグメント利益12百万円となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は43,686百万円となり、前連結会計年度末と比べて426百万円減少しました。これは商品及び製品が増加したものの、受取手形、売掛金及び契約資産が減少したことが主な要因であります。

負債合計は31,310百万円となり、前連結会計年度末と比べて793百万円減少しました。これは未払法人税等が減少したことが主な要因であります。

純資産合計は12,375百万円となり、前連結会計年度末と比べて367百万円増加しました。これは親会社株主に帰属する四半期純利益の利益剰余金への計上が主な要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の第2四半期連結累計期間の連結業績予想につきましては、当第1四半期連結累計期間の業績が当初計画を上回って推移していること及び足元の状況を踏まえ、2025年5月14日に公表しました予想数値を修正し、売上高31,400百万円（前年同期比16.7%増）、営業利益1,850百万円（同26.4%増）、経常利益1,850百万円（同36.0%増）、親会社株主に帰属する中間純利益1,050百万円（同34.6%増）といたします。

通期の連結業績予想につきましては、売上高66,500百万円（前連結会計年度比11.8%増）、営業利益4,300百万円（同3.1%増）、経常利益4,200百万円（同7.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益2,450百万円（同42.2%増）と修正いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,786	4,113
受取手形、売掛金及び契約資産	13,147	10,842
商品及び製品	6,525	7,388
仕掛品	1,474	1,825
原材料及び貯蔵品	139	136
その他	1,601	1,541
貸倒引当金	△61	△48
流動資産合計	26,614	25,799
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,174	3,867
減価償却累計額	△1,550	△1,656
建物及び構築物 (純額)	1,624	2,210
機械装置及び運搬具	19,017	19,247
減価償却累計額	△13,992	△14,418
機械装置及び運搬具 (純額)	5,024	4,828
工具、器具及び備品	2,695	2,863
減価償却累計額	△2,099	△2,195
工具、器具及び備品 (純額)	596	668
リース資産	1,392	1,354
減価償却累計額	△711	△664
リース資産 (純額)	680	690
その他	1,883	2,229
有形固定資産合計	9,810	10,627
無形固定資産		
のれん	2,573	2,486
その他	952	917
無形固定資産合計	3,526	3,403
投資その他の資産		
その他	4,183	3,877
貸倒引当金	△21	△21
投資その他の資産合計	4,162	3,856
固定資産合計	17,498	17,886
資産合計	44,112	43,686

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,920	3,626
短期借入金	7,292	7,027
1年内返済予定の長期借入金	3,880	3,893
リース債務	211	212
未払法人税等	1,226	175
賞与引当金	1,116	463
その他	4,082	5,225
流動負債合計	21,730	20,624
固定負債		
長期借入金	7,224	7,489
リース債務	518	532
退職給付に係る負債	2,181	2,202
資産除去債務	216	216
その他	235	244
固定負債合計	10,374	10,686
負債合計	32,104	31,310
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,748	1,748
資本剰余金	2,026	2,026
利益剰余金	7,533	7,768
自己株式	△233	△283
株主資本合計	11,075	11,261
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	49	50
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	112	61
退職給付に係る調整累計額	193	187
その他の包括利益累計額合計	355	301
非支配株主持分	576	812
純資産合計	12,007	12,375
負債純資産合計	44,112	43,686

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	11,662	13,861
売上原価	7,540	8,561
売上総利益	4,121	5,300
販売費及び一般管理費	3,901	4,482
営業利益	220	817
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	2	2
為替差益	71	97
固定資産売却益	32	5
その他	21	41
営業外収益合計	129	148
営業外費用		
支払利息	40	64
その他	9	6
営業外費用合計	49	70
経常利益	300	894
特別損失		
関係会社整理損	—	27
特別損失合計	—	27
税金等調整前四半期純利益	300	867
法人税等	99	330
四半期純利益	200	537
非支配株主に帰属する四半期純利益	27	32
親会社株主に帰属する四半期純利益	172	504

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益	200	537
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4	1
繰延ヘッジ損益	1	0
為替換算調整勘定	90	△26
退職給付に係る調整額	△3	△5
その他の包括利益合計	92	△29
四半期包括利益	292	507
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	249	450
非支配株主に係る四半期包括利益	42	57

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲の重要な変更)

当第1四半期連結会計期間より、当社はSpectrum Audio Visual Pte. Ltd.の株式を新たに取得したため、同社を連結の範囲に含めております。また、前連結会計年度において非連結子会社であった株式会社デランシー、株式会社RECO及び株式会社CHAMELEONは、重要性が増したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

当第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であったSama D&I Co., Ltd.は、2025年4月1日付で、連結子会社であるSama Sound Inc.を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	648百万円	693百万円
のれんの償却額	96	143

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2025年5月23日開催の取締役会決議に基づき、自己株式20,800株の取得を行いました。また、単元未満株式35株の買取りを行いました。この結果、当第1四半期連結累計期間において自己株式が49百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末において自己株式が283百万円となっております。

(セグメント情報等の注記)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	販売施工事業	建築音響施工事業	コンサート・ イベントサービス 事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	5,869	2,046	3,746	11,662	—	11,662
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	91	136	4	232	△232	—
計	5,960	2,183	3,750	11,894	△232	11,662
セグメント利益 又は損失(△)	△4	73	486	555	△335	220

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△335百万円には、セグメント間取引消去16百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△352百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	販売施工 事業	建築音響 施工事業	コンサート・ イベント サービス事業	その他 の事業			
売上高							
外部顧客への 売上高	6,304	1,986	5,113	456	13,861	—	13,861
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	69	3	20	13	107	△107	—
計	6,373	1,990	5,134	470	13,969	△107	13,861
セグメント利益 又は損失	△158	3	1,287	12	1,145	△328	817

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△328百万円には、セグメント間取引消去62百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△391百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 前第1四半期連結累計期間に実施した企業結合について、取得原価の配分が完了していなかったため、暫定的な会計処理を行っております。前第4四半期連結会計期間に確定したことから、前第1四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表は、暫定的な会計処理の確定による影響を反映した後の金額により組み替えております。なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント損益への影響はありません。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第2四半期連結会計期間より、株式会社オフィックスの株式を取得し、連結の範囲に含めたことに伴い、「その他の事業」の報告セグメントを新たに追加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「販売施工事業」セグメントにおいて、当社は、2025年4月1日に、Spectrum Audio Visual Pte. Ltd. の株式を取得し、連結子会社化いたしました。当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間においては90百万円であります。なお、のれんの金額は、当第1四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。